

慶應義塾大学 日吉キャンパス

特色GP だより

no.4

>>> 慶應義塾大学日吉キャンパス 特色GP

平成17年度特色ある教育支援プログラムで選定された「文系学生への実験を重視した自然科学教育」は、慶應義塾大学日吉キャンパスに在籍する文系4学部(文・経済・法・商)の学生を対象とする実験重視の自然科学教育を実践する取組です。この便りでは、取組の活動状況をお知らせします。

日吉キャンパス特色GP第2回シンポジウム開催

日吉キャンパス特色GP「文系学生への実験を重視した自然科学教育」では、下記要領で第2回シンポジウムを開催します。今回は「様々なカリキュラムの可能性」をテーマに、京都大学と新潟大学および国際基督教大学から講師をお招きしてそれぞれの取り組みを紹介して頂くと同時に、文系専門課程学生への自然科学教育に関する慶應義塾大学の取り組み状況を報告し、副専攻制等を含めた新たなカリキュラムの可能性についてパネルディスカッションを行います。多くの方々のご参加をお待ちしています。

日時：11月22日(水) 13時～17時

会場：日吉キャンパス来往者1階シンポジウムスペース

1. 講演

- ・「京都大学総合人間学部『副専攻』制度の変遷」
西井正弘(京都大学大学院人間・環境学研究科教授 総合人間学部教務委員長)
- ・「新潟大学の新学士課程教育システム 分野水準表示法と副専攻制度」
濱口 哲(新潟大学教授副学長(学務担当) 全学教育機構副機構長)
- ・「実験から得られる智慧」
北原和夫(国際基督教大学教養学部教授 理学科長)
- ・「文系専門課程学生に対する自然科学教育カリキュラムの可能性
慶應義塾大学学生へのアンケート結果報告」
表 實(特色GP事業推進責任者 慶應義塾大学商学部教授)

2. パネルディスカッション

西井正弘、河野正司(新潟大学教授・理事(教育担当)・全学教育機構長)
濱口 哲、北原和夫、西村太良、朝吹亮二(日吉主任代表・慶應義塾大学法学部教授)
表 實

なお、詳細はホームページ(URL <http://www.sci.keio.ac.jp/gp/>)をご参照ください。

連絡先：慶應義塾大学日吉キャンパス特色GP事務局

TEL : 045-566-1316 (内線33533)

E-mail : gp-sci@phys-h.keio.ac.jp



全国大学アンケート調査中間報告

全国大学の自然科学教育に関するアンケート調査結果中間報告

日吉キャンパス特色GP事務局

慶應義塾大学日吉特色GPでは、その事業の一環として全国の大学における「文系学生に対する自然科学教育」の実態を把握することを目的に、下記のアンケート調査を実施した：

- 1) 調査実施時期：2006年3月～2006年5月
- 2) 調査対象：全国の4年制国・公・私立大学
- 3) 調査に協力頂いた大学の数：301大学（312学部）

調査に協力して頂いた大学の数は、文系学部をもつ大学（調査該当大学）506校のうちの約60パーセントに相当し、今後の議論に資する貴重な資料となるものと期待される。この他に21校の文系学部を持たない大学（調査対象外）からも、調査にご協力が寄せられた。

本アンケート調査の趣旨は、このアンケートの結果を慶應義塾大学内における文系学生に対する自然科学教育の質の向上を目指す取組の資料とすることであるが、それだけでなくその結果を公表することにより単に慶應義塾という一大学の枠を超えて、「文系学生を対象とする自然科学教育」のあり方に関する各大学の今後の論議に資するデータを提供することにある。

現在調査結果報告書の作成とその結果をデータベースにまとめる作業を進めているところである。これらの報告書は調査に協力頂いた全国の各大学にお送りすると同時に、報告書およびデータベース化した資料をホームページにて公開する予定である。

他大学調査報告書

前号に引き続き、下記大学について調査報告書要旨を下記の通り報告します。

オーストラリアの大学視察報告

経済学部
青木健一郎

今年の3月にシドニーの2つの主要大学、University of Sydney, University of New South Wales を中島陽子先生と視察に行きました。色々な自然科学の実験室を見学し、実験教育、また大学教育一般についてシドニーの大学教員と議論する機会が得られました。

オーストラリアの大学では卒業するのに通常3年要します。その一方、外国語教育・総合教育科目を履修する必要は無く、専門科目と関連する基礎科目を履修します。実験教育の内容等の科学教育に関する考え方は我々と基本的に同じであり、万国共通であるということであらためて実感させられました。実験種目は我々と似たものも多く、オーソドックスなものが主でした。現在オーストラリアでは、二学部、あるいは二学科から卒業単位を取得する学位（Double major, Double degree, Combined Degree）、あるいは、学部でも研究を行う学位（Honors Degree）等に人気があります。これらのプログラムには4年以上の履修が必要ですが、学術的な興味と、就職等で有利であるという実用的な理由の両方から人気があるようです。

先方の大学教員には時間をとって歓待していただいたことに謝辞を記します。

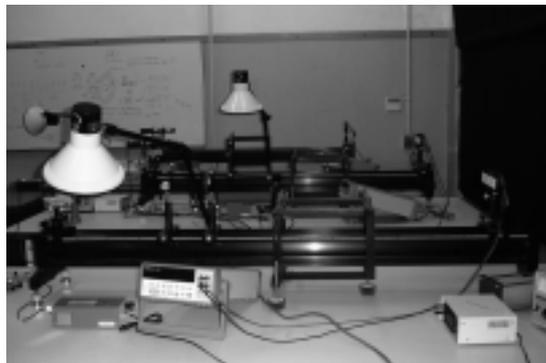
（平成18年2月28日～3月4日）

京都大学総合人間学部視察報告抄録

法学部
下村 裕

2006年7月10日、京都大学総合人間学部を視察した。視察では、学部、カリキュラムの変遷、副専攻、実験授業等についての説明を受け、また見学や意見交換を行った。そして実験室や実験授業風景等の写真や多くの資料・実験テキストを得た。

人間総合学部には、人間科学系、認知情報学系、国際文明学系、文化環境学系、自然科学系という5学系があり、1学年定員は120名である。学生は、入学試験の形態にかかわらず入学後1年間はこの学系にも属さず、2年進級時に主専攻を決めて学系に所属する。平成5年度の学部開設時より設けられている副専攻制度は、各自が所属する学系の専門分野以外の特定の分野を系統的に履修する制度であり、副専攻を修得す



京都大学総合人間学部 実験室

ることは卒業の必須要件である。なお、副専攻分野はいつでも変更可能であるが、学生は指導教員と相談の上、各自選択する。副専攻を修得した証として、学士の学位記とは別に、副専攻名を記した認定書が学部長名で発行される。

視察に協力いただいた京都大学教職員の方々に、謝意を表する。

(平成18年7月10日)

鶴岡タウンキャンパス視察報告

法学部
小野 裕剛

本塾先端生命科学研究所(山形県・鶴岡タウンキャンパス)では、例年高校生や投資家に向けた公開講座を行っている。今回は初めて遺伝子工学を体験するという共通点から、塾内高校生20名に2泊3日で遺伝子工学を体験させる「バイオサマーカレッジ2006」を全日程に渡り3名(小野・萱嶋・川崎)で見学させていただいた。

短時間に遺伝子クローニング・配列決定からコンピューターシミュレーションまでを組み込んだ大変密度の高い日程であった

が、実習室が良く整備されていることに加え、鶴岡に常駐する教員・大学院生が6名程度常駐して指導のおかげで、実験は滞りなく進行されていた。また、所長である富田勝先生の講演や研究所案内により、参加した高校生はバイオ研究の雰囲気や充分堪能し、バイオ関連分野への進学意欲を一層高めたようであった。

先端生命科学研究所の強みはその設置思想にある。大学の研究・教育施設とバイオベンチャーが隣接して連携できる立地であり、宿泊施設はもちろん託児所やジャグジーといった厚生施設を整えたことにより、鶴岡地区はそこで学ぶ者の集中力をいやが上にも高める、そう考えさせられた3日間であった。



遺伝子組み換え大腸菌の作成

(平成18年8月21日～23日)

シンポジウム報告

近畿地区大学教育研究会第75回研究協議会報告

商学部 表 賢

平成18年9月9日(土)京都市華頂短期大学で開催された近畿地区大学教育研究会の第75回研究協議会に出席し、シンポジウム「『大学の学校化』時代における教養教育」で「自然科学教育の意義について 学生にとって、研究者にとって」というタイトルで報告し、パネル討論の講師として質疑応答に参加してきた。

近畿地区大学教育研究会は、京都地区・大阪地区・兵庫地区・滋賀地区・奈良地区の大学からなる組織であり、当初は一般教養研究会として始まったものが今日の組織に改組されたものであり、近年は年に1回の割合で研究協議会を開催しているとのことである。第75回協議会にあたる今回の協議会には、上記各地区の大学から教員および大学職員合わせて110名前後が参加した。

シンポジウムの趣旨は、「大学の学校という状況のなか

で、特に 教養教育 に焦点を絞り、その新たな可能性、すなわち中等教育の単なる延長にとどまるのではなく、現代の学生の関心やニーズに対応しつつ、今後の社会にとってより有為な資質・能力を備えた人材を育成しようとする教養教育の可能性を模索する」というものであった。

なお本シンポジウムへの参加は、シンポジウム事務局よりパネル討論での報告と議論への参加依頼を受けて、慶應義塾大学日吉キャンパスで実践されている「文系学生への実験を重視した自然科学教育」の紹介とその意義について報告する目的で実施されたものである。

今回のシンポジウムに参加して、近畿地区では多数の大学が参加したこのような研究会が存続し、毎年定期的な会合がもたれているという事実を初めて知ったことは大きな驚きであった。

次回は他大学シンポジウム(東北大学、大学教育学会・課題研究集会)の報告をお伝えします。

日吉キャンパス特色GP会議記録

7月10日(月)、10月6日(金)に特色GP会議が行われた。報告事項および協議事項は下記の通りです。

7月10日(月)

- ・ 事業1 第3回ワークショップ
～「文系専門課程の自然科学教育に関するアンケート」調査の分析～
- ・ 全国他大学調査アンケート結果および集計方法
- ・ 事業3 新しい実験テーマの開発
- ・ 東北大学シンポジウム講演者
- ・ 新年度にむけて
- ・ 第4回ワークショップ

10月6日(金)

- ・ 事業1 「文系学生への実験を重視した自然科学教育」
第2回シンポジウム 様々なカリキュラムの可能性
進行状況報告

- ・ 近畿地区大学教育研究会シンポジウム講演(9月9日)報告
- ・ 東北大学シンポジウム(11月24日)および大学教育学会2006年度課題研究集会シンポジウム(11月26日)講演者決定
- ・ 慶應義塾大学鶴岡タウンキャンパス視察報告
- ・ 特色GP特別研究教員(新任)の紹介
- ・ 事業3 新しい実験テーマの開発
- ・ 来年度シンポジウム(矢上と合同のシンポジウム開催の可能性について、その賛否を含めて議論した)
- ・ 全国他大学調査アンケート
- ・ 予算執行状況報告

事業1ワーキンググループ 会議記録

7月4日(水)、7月31日(月)、10月3日(火)に事業1のワーキングメンバーによる会議が行われました。報告事項および協議事項は下記のとおりです。

7月4日(水)

- ・ 京大視察・調査予定
- ・ シンポジウム報告書1,000部発行予定
- ・ 第3回ワークショップ7月20日(木)開催予定
- ・ 第4回以降ワークショップ検討
- ・ 第2回シンポジウムは外部から講師を招き、11月頃開催予定

7月31日(月)

- ・ 京大視察・調査の報告
- ・ シンポジウム報告書は最終確認後、出版予定
- ・ アンケート調査分析の訂正・加筆と報告書について
- ・ 第3回ワークショップの報告

- ・ 第4回ワークショップは10月頃他大学へ視察・調査の予定
- ・ 第2回シンポジウムは11月22日(水)開催予定

10月3日(火)

- ・ シンポジウム報告書の表紙デザインについて報告
- ・ アンケート調査報告書はシンポジウムに間に合うように完成させる
- ・ 第2回シンポジウムのパネルディスカッションテーマを次回の会議までに検討
- ・ 事業1ワーキンググループ幹事の交代
- ・ 三田で自然科学教育科目を開講する案について検討

今後の予定・お知らせ

日吉キャンパス特色GPからのお知らせ

- 11月22日 事業1 慶應義塾大学日吉キャンパス特色GP主催「文系学生への実験を重視した自然科学教育」
第2回シンポジウム 様々なカリキュラムの可能性
- 11月24日 事業4 東北大学特色GPシンポジウム
「慶應義塾大学における自然科学教育の試み：過去、現在、そして未来へ」講演予定(文学部 金子洋之)
- 11月26日 事業4 大学教育学会2006年度課題研究集会シンポジウム(会場：金沢大学)
「文系学生への実験を重視した自然科学教育」講演予定(文学部 金子洋之)
- 11月～ 次年度予算案立案

特色GPウェブページでは以下のコンテンツを掲載しております。

- ・ 活動予定、記録
- ・ 文系学生の実験について
- ・ 他大学調査、報告書、全国大学アンケート調査
- ・ 関連プロジェクト

慶應義塾大学日吉キャンパス特色GP事務局

Tel: 045-566-1316 (内線: 33533)

E-mail: gp-sci@phys-h.keio.ac.jp

<http://www.sci.keio.ac.jp/gp/>

